

3) 阪神南地域

日 時：平成16年6月6日(日) 14:30~17:30

会 場：西宮市市民交流センター/ホール

テ ー マ：「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと、
将来に生かしていくべきことは？」

14:30 はじめに
(5分) ・あいさつ、趣旨説明

14:35 ステップ0：「ワークショップとは？」
(20分) ・ワークショップの進め方 できるだけ簡単に
・アイスブレイク(自己紹介)

14:55 ステップ1：「10年間を振り返って」
(40分)
被災地が ・震災後10年間でできたこと、できなかったこと

15:35 班別発表
(10分) ・各班2分ずつ ↑

15:45 ~休憩~
(10分) ↓

15:55 ステップ2：「将来に向けて」
(40分)
被災地が { ・将来に向けて生かすべきこと
・世界に向けて発信していくべきこと

主体感覚が大切！
『あなたが県民として』

各班から1人ずつ
代表者を選出する

ステップ1の整理
(40分)

16:35 班別発表
(10分) ・各班2分ずつ

16:45 ~休憩~
(5分)

16:50 ステップ3：「まとめ」
(35分) ・各班の成果を整理 ↑

・重要だと思う別々の
島にシールを貼る

17:25 最後に
(5分) ・総括ワークショップの案内と代表者の決定

17:30 終了 ↓
・各班2人ずつ

・ 阪神南地域ワークショップの様子



まずは自己紹介でリラックス



各班で議論が白熱する場面も



ステップ1でまとまった意見を発表



身振り手振りで自分の班の内容をアピール



代表者によるステップ1のまとめ



ステップ2についても各班で発表



ステップ2のまとめは会場全体で行った



まとめた項目に順位付け

・ステップ1：各班のまとめ

10年間を振り返って(2004年6月6日 阪神南1)

グループ活動ができた。(10)

コーラスグループができました。(10)	ボランティアのいずみ会活動のリーダーになり指導するようになった。(10)
ボランティア健康、体操、豊饒指導実施。(10)	料理教室を開き、料理の指導を行う。(10)
とりのりの人との付き合いが深くなりました。(10)	

地域活動が活性化できた。(10)

安全防災対策で自主防災のグループができた。自分の町は自分たちで守る。(10)	仲間間に互励の精神が養われた。(10)
誰でも気軽に参加できるボランティア活動の企画実施。・ランドリーボランティア・捨てないで！ペルマープ・忘れられたあの日！ビデオ(10)	まちづくりを通して地域活動が活性化し若い人の参加が増えた。(10)

個人財産の復興ができた。(10)

個人的には家の再建にて町事務所に建築しました。人と人との関わり合いができた。(10)
震災で被災し自宅の建て替わった。まわりも壊れいなりつつある。(10)

亡くなった方の家屋への支援が十分(土地を譲られて帰ってこれない)。(10)

ハード的な町づくりができた。(16)

園遊物質、料理などの講座ができた。(16)	小学校や集会所、公園や防災設備が設置された。(16)
まちあそびの復興がほぼ出来あがった。(16)	歩道的なインフラの復興(堤防、道路)はほぼ完了。(16)
震災被害復旧区画整理事業がほとんど完了し外見の家屋、道路コミュニティ道路の確保が完了、防災公園ができ。(16)	

ハードの未整備。(10)

商店や小売市場などが立ち直れていない。(10)	ハードウェア的復興が未済の地域ができていく。(10)
-------------------------	----------------------------

自分と新しいマンションのコミュニティがうまくいっていない。町づくりがこれから提案中。(10)

体験を基にした有事に対する備え(震災の取組の「皆さ」)ができていない。町が機会がないと日常は事故。(10)

制度の未整備。(10)

自然災害で家屋が破壊された時個人で負担しずるべき(借付など)で修理できる制度がまだ。(10)

10年間を振り返って(2004年6月6日 阪神南2)

仮設住宅で苦労した(20)

仮設住宅で被災しました。松江の知人のところへ行くことになりました。(20)	松江に一月半くらいおりましたが、仮設が出来て帰りました。(20)
---------------------------------------	----------------------------------

協働と参画の大切さを実感できた(20)

行政と地域の協働の実動しなくてはならない。(20)	住民と行政が協働してできた。(20)
---------------------------	--------------------

住宅再建がほぼできた(20)

個人的には震災で壊れた家屋が徐々に機能が回復しなくなりつつある。(20)	住宅 復興住宅(20)
町の復旧復興ができた。(20)	二年後に現在の陽光町の復興住宅に入りました。安定しております。(20)
尼崎市内の震災復興について今年も関係してはいますが、まだあきらまなかった感じがする。(20)	復興住宅の情報発信ができた。(20)
復興住宅支援(弱い)。(20)	

コミュニケーションの大切さを認識した(20)

コミュニケーション人との様々な人間関係など相手のことを考えることができた。(20)	コミュニティの再生、活性化(20)	自分をふりかえってみて少し変わってきた。(20)
震災直後にある人が涙を流し、半日中腹痛で水を求めてしまった。(20)	不景が続く中仕事も新しくチャレンジができた。楽しくなってきた。(20)	個人関係が出来た。(20)

NPOやボランティアグループがたくさんあがった(20)

この指とまれの立ち上げをした(20)	ボランティア活動をするようになった(20)
町づくり協議会、NPOやボランティアグループがたくさんあがった(20)	行政からの指示待ち状態であった。(20)
住居自らの働くことの大切さ(20)	町にたくさんビルができた(20)

経済の復興が遅れており生活不安が続いている(20)

失業率が高い(20)	将来計画が必要であるがなかなかできない。復興資金の借金が残ってローン地獄(20)
尼崎市内の現状は経済の地盤沈下が激しく震災後ますます加速している。(20)	

防災意識が向上した(20)

個人的な防災意識を持つようになつてきた。(20)
生活用財を確保するようになつて来た。(20)

10年を振り返って(2004年6月6日 阪神南3)

身近での防災管理が出来ていない(30)

いざというときの家の確保のための備材のつなぎりができていない(30)	ライフラインを出来るだけ自分で、という意識が醸成できていない(30)	地域内の防災準備が出来ていない(30)
人間サイズのまちづくり=自動車サイズのまちづくりができていない(30)	地域内で防災に対する話し合いが出来ていない(30)	

環境景観に配慮したまちづくりができなかった(30)

環境には配慮したまちづくりがなかった(30)	美しい景観のまちづくりが出来なかった(30)
------------------------	------------------------

経済力が低下した(30)

商店の活力がない(30)	小さな店がまたまた元氣になっていない(30)
集客の元気がない(30)	種々ファッションの復活(種々ブランドの美値)が出来なかった(30)

主に高齢者の心のケアが出来ていない(30)

入居らしの人への支援が出来ていない(30)	街はきれいになってきたが人の心はケアできていなかった(30)
狭い方々への支援をしてきたが継続できていない(30)	若い人には、まだまだ立ち遅れていない人がいる(30)

行方よりになるべくせず、自ら行動するようになった(30)

商店のとき病気になる、健康が第一だと特に思った(30)

芸術文化づくりが出遅れている(30)

情報面に意図が感じられる(30)

近所のコミュニケーションが不足している(30)

ボランティアの活動が増えたこと(30)	元の住所に戻れなかった人が多くコミュニティが再生できなかった(30)	住居は出来たと思いつきの空間整備、いざし、住人の結束が出来なかった。(30)	地域の中で新住民と旧住民のコミュニティが出来ていない(30)
	地域の防災意識が少しは高まった(30)	隣近所が遠くなった(30)	

インフラ整備が進んだ(30)

環境が良くなった(30)	都市としての整備はある程度進んだ(30)	道路が大幅整備されてきた(30)
--------------	----------------------	------------------

10年を振り返って(2004年6月6日 阪神南4)

震災体験で得た意識の風化した(40)

震災で得た貴重な資料を収集し、整理できなかった(40)	震災時の助け合いの精神が持続できなかつた(40)
防災意識の特長ができていない(職場、市民)(40)	

まちの再建はできたが、住みこなし(ソフト面)はまだこれからだ(40)

おのおの建物等ができた(40)	ソフト面での整備ができてなかった(40)	ハード面での復興(40)
市屋敷の町の復興はほぼ出来上がった(40)	民間から種々つづられた街が生まれ変わった(40)	

心のケアは見えないのでできていない(40)

震災を踏まえて、市域内の防災対策ができていない(40)

今後の災害に対する備えが出来ていない(40)

公共施設の耐震補強ができてなかった(40)	今後の地震対策が不安だ(40)
次世代への伝達(40)	

被災地からの発信ができていない(40)

1月17日を全国にアピールすることができた(40)	やっどプレーパークの全国大会ができることになった(40)
防災の日を、1月17日の追悼式を都市でできている(40)	

防災意識の向上が図れた(40)

私の地域では何となく子ども会が復活になりました(40)	自分の家の防災対策は十分とはいえないけれど(40)
地域みんなで子供たちを、見守ろうという気運が高まった。(若い保護者の意識の風化)(40)	防災意識の向上が図れた(40)
	防災計画の充実ができた(40)

財政、家計へのダメージが残っている(40)

個人の借財が返せていない(40)	市の財政ができていない(40)
社員が死んだ。家がつぶれた。収益ヒルがつぶれた。(40)	多くの住人が銀行がつぶれた(40)

10年間を振り返って(2004年6月6日 阪神南5)

ハードの復旧ができた(5G)

ライフラインは復活した(5G)	家屋などは復活した(5G)
広域幹線の供給開始ができた(5G)	住宅の復旧及び復興ができた(5G)

復旧から次のステップに進みだした(5G)

その際、行政の対応が薄すぎた。地域の人々の会話がもっとほしい(5G)

自分自身の能力を改善できた(5G)

地域防災力が進まなかった(5G)

心つと災害の恐ろしさをもつていつも注意を怠らないうようにしてほしい(5G)	地域の防災はいまいち(5G)
自主防災の自主性が住民に浸透しなかった(5G)	

地域ネットワークの向上ができた(5G)

お互い助け合う気持ちのよみがえった(5G)	近隣の住民の方とよく話をするようになった(5G)
地域ネットワーク作りで仲間を作ることの大切さと理解できた(5G)	地域のコミュニティが前進できた(5G)

災害時の協力の大切さが分かった(5G)

自主防災会の精進率が相対増加した(5G)
多くの人々が震災をきっかけに動き出した(5G)

子育てや学校との連携を大事にしよう(5G)

地域で子育てが大事。愛を育てる。自然に親しむ(5G)
防災教育と学校との連携ができた(5G)

意識が継続しなかった(5G)

過ぎ去った災害しるしや忘れかけている(5G)
当時は事業場などまわりのあつたが今は先通し(5G)

ある程度自分で業務を作れるようになった(5G)

命の大切さが理解できた(5G)

コミュニティの復旧ができなかったところがある(5G)

多くの子ども達と接するなかで震災の怖がいを覚えたように感じた(5G)

震災の経験を伝えることができようになった(5G)

森林が少なくなり緑が少なくなっている(5G)

10年間を振り返って(2004年6月6日 阪神南6)

西宮ブランド等の新しい産業の仕組みと方法が生まれた(6G)

コミュニティビジネスが普及してきた(6G)	ボランティアから継続するのめり深く企業への移り変わりが鮮しい(6G)
出来たこと。被災したまちの復興を道徳的リソースとして、結果もふくめシニアムとして、再活性化できた(6G)	震災の証として、西宮ブランドを、洋菓子と菓子と数り組み、一歩の成果がとれている(6G)

まちの復興が遅れている(6G)

10年過ぎてやはり景況が回復できていない(6G)	出来なかったこと。街の中の市場・商店街の復興がなかなか商業に育たなかったところが多いからである(シャッター商店街)(6G)
--------------------------	---

行政への要望。認定資産税、都市計画税等の減免、インフラの改善とくに都市計画、道路等の着工(6G)

企業の復興にかける二層の支援に努めた(6G)

医療、福祉の対策、対応ができた(6G)

医療の確保(バリアフリーを確保してもらう)確保できた(6G)	被災後に、心の支えを失った人への心のケアを行っているがなおその途上にある(6G)
福祉の方は少しよくはなっていますが、まだまだ整備できていない(6G)	

地域の防災力の強化の必要性(6G)

できたこと。日常生活上の地震に対する備え(6G)	できなかったこと。地域のひとびとによる、団結力の強化(6G)	防災力の強化拡充が出来た(6G)
地域コミュニティの勉強ができるようになった(6G)	地域防災力の精進および、育成ができた(6G)	防災ネットワークがまだまだ未熟まで周知できていない(6G)

思いやりの心が芽生えた(6G)

バリアフリーの考え方が浸透した(6G)	まわりの事だけでなく、まわりの人が出てきた(6G)
以前は、自分以外の手を離してしまっていたが他人に対して見る目が変わった(6G)	

防災意識の向上と、薄れ(6G)

できたこと。地震に対する認識(6G)	学校教育における防災教育ができてきた(6G)	災害のこわさを忘れてきた(良・悪い)(6G)
--------------------	------------------------	------------------------

ボランティア精神のめばえ(6G)

ボランティア精神が生まれた(6G)	行政のワークショップへ積極的に参加した(6G)
自分から何かしようと動くようになった(6G)	

・ステップ1：阪神南地域のまとめ

10年間を振り返って(2004年6月6日 阪神南)

地域ネットワーク、グループ活動やコミュニティのつながりは向上したが新しいまちでは不足している。(30点)

活動の進捗は向上したが、今後の計画に対する備えはまだまだだ。(27点)

新しい産業の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれからは。(23点)

子育てや学校への連携を大事にしよう。(5点)

自分自身の非力さを認めてあげよう。(0点)

ある程度自分で仕事をやれよう。(0点)

新しい産業の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれからは。(23点)

子育てや学校への連携を大事にしよう。(5点)

自分自身の非力さを認めてあげよう。(0点)

ある程度自分で仕事をやれよう。(0点)

活動の進捗は向上したが、今後の計画に対する備えはまだまだだ。(27点)

新しい産業の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれからは。(23点)

子育てや学校への連携を大事にしよう。(5点)

自分自身の非力さを認めてあげよう。(0点)

ある程度自分で仕事をやれよう。(0点)

地域ネットワーク、グループ活動やコミュニティのつながりは向上したが新しいまちでは不足している。(30点)

活動の進捗は向上したが、今後の計画に対する備えはまだまだだ。(27点)

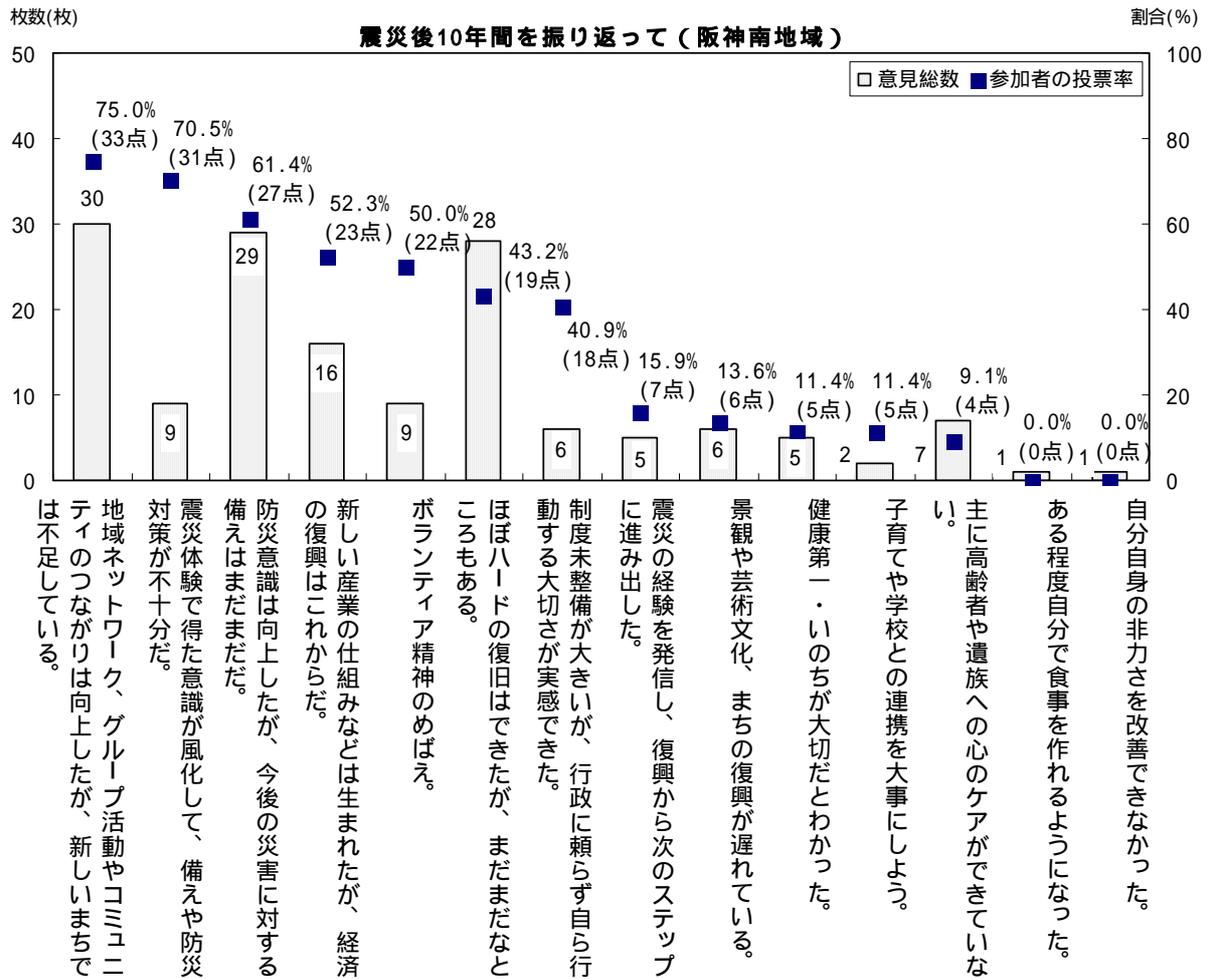
新しい産業の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれからは。(23点)

子育てや学校への連携を大事にしよう。(5点)

自分自身の非力さを認めてあげよう。(0点)

ある程度自分で仕事をやれよう。(0点)

・「震災後10年を振り返って」について



阪神南地域の参加者44名が、会場全体でまとめた「震災後10年を振り返って」は、大きく14項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思う意見を5つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「ほぼハードの復旧はできたが、まだまだなところもある。」に含まれる意見が3番目に多かったが、順位付けの段階では、「震災体験で得た意識が風化して、備えや防災対策が不十分だ。」「新しい産業の仕組みなどは生まれたが、経済の復興はこれからだ。」「ボランティア精神のめばえ。」を重要だといった意見の方が上回っている。

また、「景観や芸術文化、まちの復興が遅れている。」という項目の中には、「情操面で荒廃が感じられる」という意見もあった。

・ステップ2：各班のまとめ

将来に向けて(2004年6月6日 阪神南1)

震災時の正しい情報伝達。(16)

正しい情報の発信と受信を早くするシステムをつくる。(16)

被災地では何ものから可及し正確な情報がほしいと思います。(16)

外国人やハンディのある人にもわかりやすい町づくり、コミュニティづくりを推進する。(16)

物的、資金的な援助の仕組みはもろろ人のことと一人一人の心構えを尊重しあいの心を醸成させる仕組みづくりと、その実施。(16)

被災者と支援者へのマニュアルづくり。(16)

災害発生時からの段階的に(時系列に)必要なことできることなどをまとめてマニュアル化すること。(16)

震災直後の困ったことなど、手の声も発信していくこと。(16)

自立するための仕組みの検証と成功事例の顕彰と、その発信。(16)

次世代に記録を残す(16)

さまざまな立場、状況下で起こった事例を顕彰し読みものビデオなどで残すことに教育意義を付与。(16)

震災、被災地現場の写真などまとめて次の世代の子供たちに知らせる。(16)

震災を体験していない人に当時の状況を伝えること。(16)

地域の防災づくり(16)

地域での防災組織をつくっていくこと。(16)

地域の自主防災対策を町全体で考え実際に訓練実行できるように毎年一度コミュニティの一環としていたがほしい。(16)

ボランティアの活性化(16)

ボランティアの活動を地域でもっと盛んにしていくこと。(16)

高齢者の福祉対策事業を盛り込んだまちづくりのマップ作り。(16)

災害救助、救援の仕組みづくり(16)

民間体制の充実をはかる。(16)

災害救助などの育成を進め世界で活躍できるシステムをつくる。(16)

将来に向けて(2004年6月6日 阪神南2)

災害の正確な情報発信を作る(20)

震災資料・情報各正確に公開する(国内)・情報発信の確立・ネットワーク化(20)

震災情報をインターネット等で公開すること(20)

正確な情報発信をするに同時に企業との協力についても検討

インターネットを活用して早く情報を発信するシステムを作る(20)

防災体制の官民の責任の区分を明確にする(システム作り)(20)

ボランティア、NPOなどのネットワークを構築していける行政人の必要性(20)

緊急時の防災体制を明確にし、個人個人の認識を深め訓練する(20)

自主防災組織を作る(地域防災も促す)・マニュアルを作る(20)

避難所マニュアルなど管理運営等の指針作成(20)

防災対策を確立する(20)

防災面において地域と行政の連携・高齢者・後継者の情報をついんでおく(20)

防災について官民の責任区分の明確化(20)

住みやすい住宅作りを進める(20)

仮設住宅の作り方を甲府で地震の起こった場所にノウハウを提供する(20)

仮設住宅の生活上の問題を整理する(20)

震災を意図的にインフラの整備を考える(20)

高齢者住宅、交通事情が悪く、もつと時間的に考えてほしい。(20)

再開発、区画整理のノウハウを蓄積する(20)

住民の自主的な取り組みを育てていく(20)

ボランティアの育成とつながり維持していくこと。(20)

子供達の通学をもつと安全にしてほしい(20)

私人が多いので今以上にボランティアを育ててほしい(20)

地域社会のコミュニティの育成(ふる里登録)(20)

地域のコミュニティの顕彰化、ボランティアを登録する(20)

震災を忘れず後世に伝えていく(風化させない)(20)

地震に対する認識向上の防災教育(20)

震災を忘れず後世に伝えていくこと(20)

防災意識の伝達を行う(20)

将来に向けて(2004年6月6日 阪神南3)



将来に向けて(2004年6月6日 阪神南4)



将来に向けて(2004年6月6日 阪神南5)

震災の教訓を世界に発信する(5G)

ライフラインの大切さを若い人にも伝えていく(水、ガス、電気) (5G)	緊急事態に対応するための準備(水、食糧) (5G)
震災の教訓を世界に伝えていく(5G)	世界へ地震の恐ろしさを具体的に伝えていく(5G)
避難時に車使えなど伝える(5G)	防災は身を守ることを伝える(5G)

地球環境を守ることが防災につながる(5G)

子どもたちを自然に親しめる(5G)	地域の環境を美しくする(5G)
地球温暖化を防止しなければ地球が危ない(5G)	

コミュニティ力をつける(5G)

コミュニティでの付き合いの活性化により知っている人を増やす(5G)	付いた特長せる仲間を作る(5G)
震災を忘れないで地域でお互いに助け合いたい(5G)	地域防災力はコミュニティ力です(5G)
日頃から近所づきあいを大切にせよ(5G)	被災者同士のエゴが見えてきてもっと仲良くしてほしい(5G)

行政は税金を効率的につかう(5G)

国政の場で将来の防災についてもっと真剣に討論してほしい(5G)	必要に応じて重点的に税金を使う(5G)
---------------------------------	---------------------

世界の被害にあつていない国々の人々の助けを借りてほしい(5G)

自己防衛の努力をする(5G)

建物日外観、内装よりも地震耐震基礎を重視する(5G)	山崩れについて大きな被害があった。山崩れの住宅は要注意(5G)
----------------------------	---------------------------------

地域の防災力の鍵はリーダーの存在が必要(5G)

建物の被害はこの地域にはあまりないが予想被害を伝えてほしい(5G)

将来に向けて(2004年6月6日 阪神南6)

ハード面だけでなく精神的な応援も必要です(6G)

心のケアセンターや常設相談として市町村に設けること(6G)

新しい復興制度をつくること(6G)

産業復興支援の融資制度を充実すること(6G)	住宅再建支援法を改正し再建可能な金額とすること(6G)
------------------------	-----------------------------

地震に強い建物づくりをすすめる(6G)

町の広域を小さくするシステムを研究すること(6G)	耐震診断をすべての構造物で実施すること(6G)
	耐震補強を推進する(6G)

安心して生活していける町作り(6G)

建物をほしの質らしの道具はユニバーサルデザインの考えで具体化する(6G)	建物を建設するときにはコストアップであつても防災対策をきめて計画する(6G)
高速道路は地下方式にできるから都市計画を考える(6G)	

日常の防災意識を高める(6G)

個人での備え(備蓄袋、履穿)を再確認する(6G)	防災教育の義務化を回すべきである(6G)
--------------------------	----------------------

震災体験を次の世代へ語り続ける(6G)

震災の体験等を語り部として伝えていくこと(6G)	被災地であるのはこことあつた一部であるのでこのことが一番の体験として語り続けていく(6G)
震災被害や風水害の恐ろしい時代に伝える努力をする(6G)	子どもたちに伝えていくことが大切(6G)

震災で得た経験を生かしていく(情報発信)(6G)

なんといっても経験を生かす(6G)	日本も言っているのは被災国にはその国の経験を生かして情報を共有に繋ぐべき(6G)
-------------------	--

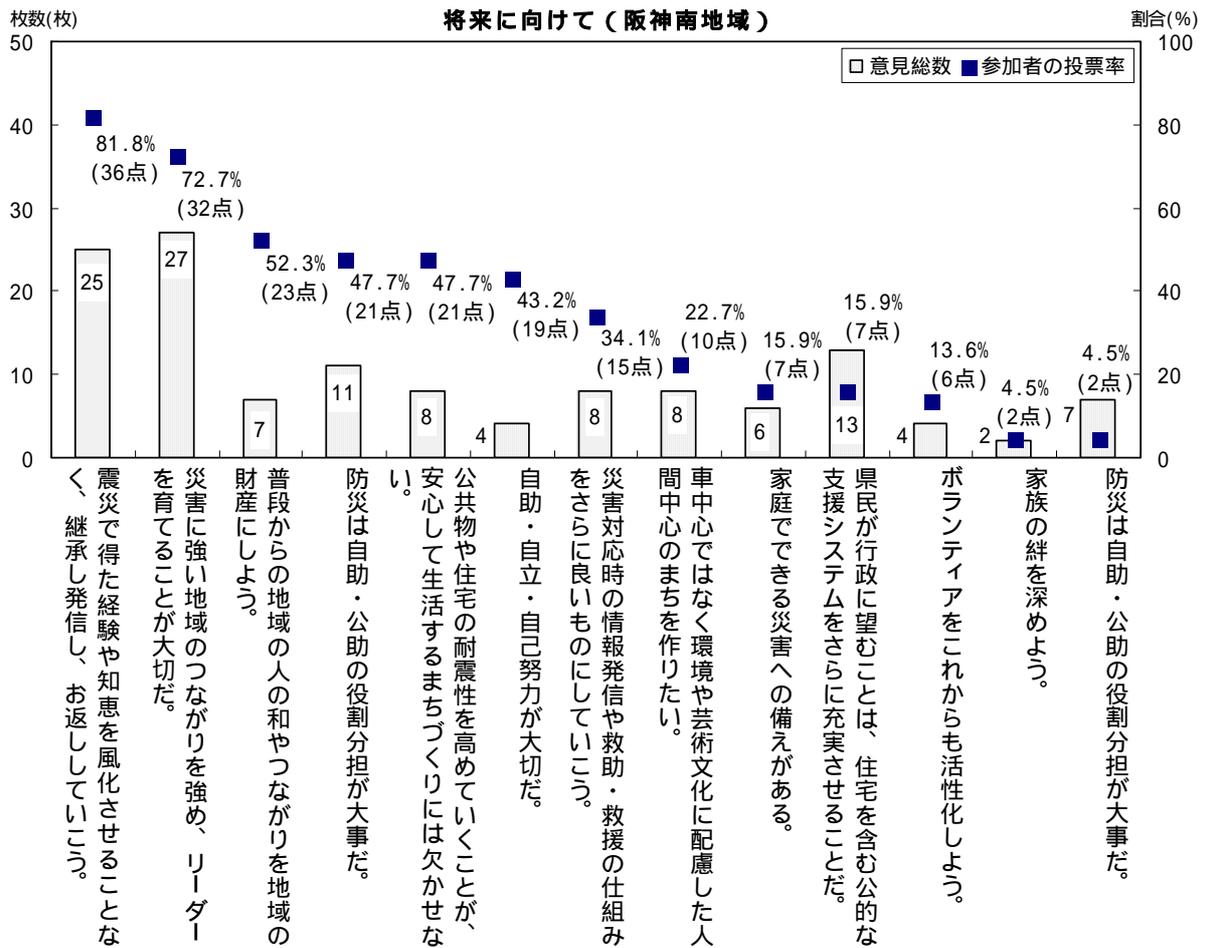
地域コミュニティの大切さを伝える(6G)

地域コミュニティの大切さを伝える(6G)	地域コミュニティを大切に考え構築すること(6G)
継続の力で人の命が助けられる(6G)	

ライフラインの大切さを世界へ伝える(6G)

まちの復興が力強く進むにふさわしいこと(日本の力強さ)(6G)	ライフラインの大切さ(6G)
電気・水・ガスの復旧を最優先すべきです(6G)	

・「将来に向けて」について



会場全体でまとめた「将来に向けて」については、大きく13項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思うものを5つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「災害に強い地域のつながりを強め、リーダーを育てることが大切だ。」に含まれる意見が最も多かったが、順位付けの段階で、「震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承し発信し、お返ししていこう。」の方が上回った。また、カード枚数が3番目に多い「県民が行政に望むことは、住宅を含む公的な支援システムをさらに充実させることだ。」も順位付けの段階で、「普段からの地域の人の和やつながりを地域の財産にしよう。」などの方が上回り、10番目になった。

また、「車中心ではなく環境や芸術文化に配慮した人間中心のまちを作りたい。」という項目の中には、「芸術文化に触れる機会づくりをする」、「芸術文化は地域の「力」です」という芸術文化を育もうという意見や「子どもたちが自然に親しめる」、「地域の環境を美しくする」、「地球温暖化を防止しなければ地球が危ない」といったような環境問題に関する意見もあった。